

えんがわ通信

「えんがわ」は、被災者の仕事に関する支援を行う施設です。その名前には、人と人とのつながりが生まれ、「縁」が「輪」ようになって広がってほしいという願いが込められています。

第4号 2012年4月
発行 ＊一般社団法人パーソナルサポートセンター
コミュニティ・ワーク創出事業部
住所／仙台市太白区あすと長町4丁目3-20
電話／022-398-8747
WEB／http://www.personal-support.org/

PSSC 相談窓口開設へ ワンストップで相談対応

一般社団法人「パーソナルサポートセンター」(PSSC)は本年度、青葉区二日町に相談窓口を開設する。仮設住宅入居者ら被災者の日常生活の不安や生活再建、仕事探しに関する相談まで、専門スタッフが一カ所で対応する「ワンストップ体制」を構築。一人ひとりが直面する状況に応じ、伴奏型で問題解決をサポートする。

これまで実施してきたPSSC安心見守り協働事業部とコミュニティ・ワーク創出事業部の2つの事業の一部をまとめ、被災者の生活と就労に関する問題解決をサポートする専門スタッフを配置。相談から、生活や就労に関するサポートプログラム

の作成、実施、その後の継続的なアフターフォローまでを、さまざまな専門機関と連携しながら行う。

同時に就労支援では、PSSCの関連団体でホームレス支援に取り組むNPO法人「ワンファミリー仙台」(青葉区)とタイアップ。同NPO法人が無料の職業紹介事業を行い、PSSCはネットワークコーディネーターを配置。さまざまな企業や団体に協力を呼びかけながら、それぞれの適正や希望に合った被災者の「仕事探し」をサポートする。

就労支援と同時に、被災者を採用する事業所もサポート。能力検査にもとづいた人材データの提

供や求人登録、社会保険労務士などの専門家派遣、各種助成金の申請に関するアドバイスなどの実施を現在、検討している。そうした取り組みにより、事業所の労務管理の負担軽減を図るとともに、就労トレーニングを実施するなどして、求人側と求職側のミスマッチ解消を目指す。



また、これまでコミュニティ・ワーク創出事業部が「えんがわ」をメインに開いてきた「手仕事」

農業体験を開始 加工も月1で開催

PSSCなど

一般社団法人「パーソナルサポートセンター」(PSSC)などは5月8日から、太白区坪沼の宮城大食産業学部付属坪沼農場で、季節に合わせた野菜作りをする「農業体験」を始める。

同農場職員の指導で、ネギやトマト、ジャガイモなどを生産するほか、毎月1回、同大の太白キャンパスで味噌(みそ)やくん製などの加工体験も実施する。

また、これまでプロジェクトは今後も継続して実施し、中間就労の場としての機能の充実を図る。

PSSCではほかにも、仙台市内で仮設入居者らが農業を体験できる畑を探索しており、土地が確保され次第、新たな農業体験を始める方針。

担当者は「今回は対象や人数が限られたが、今後、体験の輪が広がるよう土地の確保に努力したい」と話している。

農作物について栽培のノウハウを専門家から教わることもできる。

仙台市内で仮設入居者らが農業を体験できる畑を探索しており、土地が確保され次第、新たな農業体験を始める方針。

担当者は「今回は対象や人数が限られたが、今後、体験の輪が広がるよう土地の確保に努力したい」と話している。

また、これまでプロジェクトは今後も継続して実施し、中間就労の場としての機能の充実を図る。

PSSCではほかにも、仙台市内で仮設入居者らが農業を体験できる畑を探索しており、土地が確保され次第、新たな農業体験を始める方針。

担当者は「今回は対象や人数が限られたが、今後、体験の輪が広がるよう土地の確保に努力したい」と話している。

封入手伝い募集

対象は東日本大震災発生時に「仙台市以外」の被災沿岸部の市町村に住んでいた被災者で、作業は太白区あすと長町のコミュニティ・ワークサロン「えんがわ」で行う。

作業は午前と午後の1日2回で、封入を行う。作業は午前と午後の1日2回で、封入を行う。

募集者には1回あたり2000円相当の商品券を謝礼として支払う。申し込みは080(4426)9824(担当・千葉)まで。

被災地を語る③

求職と求人のミスマッチ解消が課題。求職者に寄り添った相談と希望職種の開拓に努力したい。

ハローワーク仙台
企画・情報部門
千葉 周悦 統括職業指導官



ハローワーク仙台が入居するビルは、昨年3月11日の震災直後、安全確認のため一般の人が利用することができなくなり、3月14日から、同じビルの1階入り口付近にスペースを借りて、臨時相談窓口を開設。雇用保険の失業給付受給者の失業認定業務や、激甚災害の特例措置などの相談業務を続けました。

3月22日には、通常通りの3階から5階で業務が可能になり、3階には震災特別相談窓口を設置

しました。通路に行列ができ、待ち時間は最大8時間、来所者の帰りが午後10時すぎになる日が続きました。「会社が津波に流されてしまった」「社長が行方不明になった」などの相談が数多く寄せられ、問い合わせの電話は1日中、鳴りっぱなしの状況でした。

そのような震災対応で、職員は日付が変わるまで事務処理に追われ、電車が運休する中、1時間かけて自転車で通勤するなどして、土日祝日の休みなしで睡眠時間を削りな

がら、対応を続けました。震災による困難な通勤や膨大な業務量を抱え、疲労こんぱいする中、4月の2週目から全国のハローワーク職員の仲間が応援で来てくれたことが職員にとって、大きな励みになりました。

阪神・淡路大震災があった兵庫、大阪などから最大で28人が応援に来てくれました。応援職員から「何でもやりますから少しは休んでください」とねぎらいの言葉をもらったことで、職員は大変、元気づけられました

管内の有効求人倍率は昨年11月、47カ月ぶりに1倍を超え、その状況はことし3月も続いています。被災者を採用した企業に対する助成金の影響もあり、就職件数も伸びています。しかし、そうした中でも、求職と求人

被災者の就労支援としてハローワーク仙台では、就職面接会を開いたり、山本、亘理両町で仮設住宅の集会所を回って、相談を行ったりしています。

失業保険をもらい終わった人に、担当制で情報提供をする取り組みもしています。

しかし、被災者の中には、すぐに就職しようという気持ちになれない人も少なくないと思います。求職者に寄り添った相談を今、やらなければならぬと感じています。

職種によって、企業と求職者のマッチングは簡単なことではないのですが、求職者の希望している職種が開拓できるよう、努力していきたいと思いま

がら、対応を続けました。震災による困難な通勤や膨大な業務量を抱え、疲労こんぱいする中、4月の2週目から全国のハローワーク職員の仲間が応援で来てくれたことが職員にとって、大きな励みになりました。

阪神・淡路大震災があった兵庫、大阪などから最大で28人が応援に来てくれました。応援職員から「何でもやりますから少しは休んでください」とねぎらいの言葉をもらったことで、職員は大変、元気づけられました

管内の有効求人倍率は昨年11月、47カ月ぶりに1倍を超え、その状況はことし3月も続いています。被災者を採用した企業に対する助成金の影響もあり、就職件数も伸びています。しかし、そうした中でも、求職と求人

被災者の就労支援としてハローワーク仙台では、就職面接会を開いたり、山本、亘理両町で仮設住宅の集会所を回って、相談を行ったりしています。

失業保険をもらい終わった人に、担当制で情報提供をする取り組みもしています。

しかし、被災者の中には、すぐに就職しようという気持ちになれない人も少なくないと思います。求職者に寄り添った相談を今、やらなければならぬと感じています。

職種によって、企業と求職者のマッチングは簡単なことではないのですが、求職者の希望している職種が開拓できるよう、努力していきたいと思いま

失業保険をもらい終わった人に、担当制で情報提供をする取り組みもしています。

しかし、被災者の中には、すぐに就職しようという気持ちになれない人も少なくないと思います。求職者に寄り添った相談を今、やらなければならぬと感じています。

職種によって、企業と求職者のマッチングは簡単なことではないのですが、求職者の希望している職種が開拓できるよう、努力していきたいと思いま

失業保険をもらい終わった人に、担当制で情報提供をする取り組みもしています。

しかし、被災者の中には、すぐに就職しようという気持ちになれない人も少なくないと思います。求職者に寄り添った相談を今、やらなければならぬと感じています。

職種によって、企業と求職者のマッチングは簡単なことではないのですが、求職者の希望している職種が開拓できるよう、努力していきたいと思いま



「えんがわ」な人々④ 斉藤慶(さいとうけい)

仙台で震災を経験したこと、被災地の方々に貢献したいと考えるようになり、昨年11月中旬に入社しました。

同年9月末まで、仙台市内の印刷会社で企業や行政機関などのウェブ制作を担当していました。震災があった3月11日は市内の職場にあり、雪がちらつく中、みんな外に避難したことを今も鮮明に覚えています。

震災後、水や食料にみんなが困っているときに、全国の印刷業界の方々から届いた支援物資に助けられ、人と人とのつながりの大切さを改めて感じました。

「えんがわ」では本紙やPSSCや関連団体が開くイベントのチラシ、ホームページの制作などを行う広報の仕事をしています。

間接的ではありますが、被災地のさまざまな「がんばる」を全国に発信し続けることで、みなさんのお手伝いができたいと思っています。

TOPICS(5月)

1 就業やキャリア等に関する個別相談

専門のカウンセラーによる、職業や進路・キャリア等に関する個別相談(1人50分)を行います。

- (就職のあっせんではありません)
- 日時: 5月24日(木) 13:00~20:00
- 場所: AERビル6階 情報・産業プラザ
- 対象: ①学生・求職中の方、②在職者(30代まで)
- 定員: 28名(抽選)
- 申込締切: 5月17日(木) 必着

2 就職応援プログラム

就職活動に必要なスキル・知識に関する講座や、専門のカウンセラーによる個別相談を行います。

- (原則2日間受講)
- 日時: 6月4日(月) 10:00~17:00(セミナー:基礎編、実践編) 6月6日(水) 10:00~18:00(個別相談:一人40分程度)
- ※ご希望に応じて基礎編・実践編のどちらかのみ、または両方のご参加が可能です。
- 場所: AERビル6階 情報・産業プラザ
- 対象: 求職活動中の方(学生除く)
- 定員: 30名(抽選)
- 申込締切: 5月28日(月) 必着
- ※いずれも、雇用保険の失業認定の際に就職活動実績として申告できます。
- 申込方法: 郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、郵便・FAX・Eメール等でお申込み下さい。締切後に応募者全員に決定通知書をお送りします。
- お問合せ先: 仙台市産業振興事業団 TEL: 022-724-1212, FAX: 022-715-8205 Eメール: koyoushien@siip.city.sendai.jp

のびすく仙台

- ◎利用できる人 主に乳幼児とその家族
- ◎住所 仙台市青葉区中央2丁目10番24号(仙台市ガス局ショールーム3階)
- ◎問い合わせ TEL: 022-726-6181 FAX: 022-214-5071

のびすく仙台「ベビータッピング」(申込み不要)

- 手のひらや指先で、やさしくトントンするタッピングタッチ。おしゃべりしながら、ほっこりできる時間です。
- 日時: 5月9日(水) 午前10時から1時間程度
- 場所: のびすく仙台こどもひろば

のびすく仙台「プレパパママ教室」4/25~申込開始

- 助産師さんを囲んでみんなで話します。もく浴やパパの妊婦体験もあります。
- 日時: 5月13日(日) 10:00~11:30
- 場所: のびすく仙台こどもひろば
- 対象: 初めてパパママになる方

NPO法人キッズドア 無料の公立高校受験対策講座

- 現役大学生らが中学3年生向けに復習補助や、定期テスト対策を中心に、勉強の仕方や受験を乗り切るためのノウハウを伝えます。座談会も開催いたします。
- 日時: 4月29日、5月13日、27日、6月3日、10日、17日、24日、7月1日、8日、15日 10:30~17:00 ※夏期集中ゼミ以降の予定は、追ってお知らせします。
- 場所: 仙台市市民活動サポートセンター
- 対象: 公立高校を受験予定の新中学3年生で、経済的な理由から塾や家庭教師その他の有料教育サービスを受けていない、または十分に受けていない生徒。※定員が50名のため、ご事情は斟酌いたします。
- 問い合わせ先: NPO法人キッズドア 東北本部[タダゼミ]事務局 080-3338-1776(岩切)、080-3337-9893(片貝)

託児スタッフ養成講座

子育て支援プロジェクト



熱心に講師の話に耳を傾ける受講者=3月27日、エル・ソーラ仙台

18人が子育ての基礎学を

8日から託児施設で実習も

被災した子どもの支援活動を展開する「MIYAGI 子どもと家庭支援プロジェクト」などは、3月27日、29日、30日の3日間、青葉区中央の「エル・ソーラ仙台」で託児スタッフ養成講座を開いた。4月8日から、仙台市子育てふれあいプラザ「のびすく仙台」で12時間の託児実習も開始。受講者は、栄養や虐待、看護など子育てに関する基礎知識を学んだ後、託児現場で子どもの対応などについて学んでいる。

講座は、就業支援の一端を養成するのが目的。仙台市内の民間賃貸住宅などに住む被災者18人が受講し、子育て支援に取り組む団体の代表や管理栄養士、保育士らから、子育てに必要な知識を教わった。

コミュニティショップ 店舗物件を募集

このうち初日の27日に講師を務めた宮城学院女子大の畑山みさ子名誉教授は「子育て支援のこの一歩、なぜ子育て支援」と題した講座を開催。少子高齢化の急激な進行や、その背景事情などを解説しながら、政府の取り組みなどを紹介し、「子育てを社会全体が支援する仕組みと意識づくりが重要」と述べた。受講者からは「本格的な講座を受講するのは初めてだったが、大変ためになった」「講座を通して学んだことを生かして働きたい」などの意見が出された。

一般社団法人「パーソナルサポートセンター」(PSC)と香川県高松市の公益社団法人「セカンドハンド」は、全国から寄せられた衣服などの品物を販売し、収益を被災地支援に充てる「コミュニティショップ」の店舗物件を探している。詳しくは、洋探している物件は、

今後、店舗の物件が確保され次第、コミュニティショップを仙台市内にオープンさせ、店の商品管理をするマネジャーら数名を募集する考えは「雇用と居場所作りを主な目的に企画した。仮設住宅に住む人たちが気軽に集まることができれば、うれしい」と話している。問い合わせは02-2(398)8747(P.S.C.鈴木)まで。

つながりが変える未来



避難している人に向き合い、なんとかしなければと動き回る人に向き合い、緊急の物資支援に向き合い、仮設住宅での支援に向き合い、あつという間にあの日から1年が経っていた。本当にあつという間でもまだやるべきことは山積んでいる。しかし、テレビを見ると、もう忘れ去られたかのようだ。もとの日本に表面上だけでも無理やり戻ろうとしているのか。被災された方それぞれが新しい生活のリスタートさせるには、今の方が、今の方が難しい局面に入るといえる。

この難しい局面を見ると、まるで日本の縮図のようだと感じる。都市での孤立、就職の困難さ、不安定な住まい、問題がうまく伝わらない政治行政。これらは震災の問題であると同時に近年の日本社会が抱えてきた問題でもある。それがこの1年で、あぶり出され、さらには濃縮されてしまったかのようだ。震災からの復興と日本社会の再生がダブって見える。

この1年で、様々な人に出会った。その多くは今までの生活では出会わなかったであろう人々だ。人と出会うときには、その人が抱える問題や課題にも同時に会おう。問題・課題は複雑だ。ひとつひとつの問題が他の問題と複雑に絡ま

りあっている。ひとりでは到底太刀打ちできない。そこで出会った人と一緒に考え、その考えを試してみるため動く。うまくいかなければ考え直し、動き直し…。解決策は簡単には出てこない。なにせ日本社会の問題・課題に向き合っているのだから。

「創発」という言葉がある。誤解を恐れず簡単に言い直してみると、ひとつひとつのものが集まると、その単純な合計より、大きなことやまったく異なる性質のことが起るといえる意味だ。「1+1+1+1」ではなく、「3」や「4」になったり、「A」や「B」になったり。現状は、今まで会ったこともない様々な人同士が出会い、同時に今まで向き合ったことのない様々な問題や課題に向き合い、解答を出そうともがいている。つまり「1+1+1+1+1」の状況だ。

この「？」を解答するのがこれからだ。この「？」が個人では思いもよらないものであっても、震災からの復興、日本社会の再生の力になる「？」が、人のつながりの中から「創発」的に解答されることを願う。そうやって出てきた「？」はきっと日本を変えてしまっとう力を持っているに違いない。(かん)

「えんがわ」のつばやき